

静岡支店

国際物流の現場を体験
清水港視察セミナー開催

国土交通省中部地方整備局清水港湾事務所の協力を得て、海外展開や輸出、その支援に関心のある県内の農業・食品事業者、行政・報道関係者向けに、清水港輸出施設の視察セミナーを開催。7人が参加しました。

県内唯一の国際拠点港湾である清水港のコンテナヤードなどの輸出入関連施設を陸上・海上の双方から見学しました。参加者からは「農林水産物の輸出において清水港を使用する利点は」などの質問や意見が多数寄せられました。国際物流についての理解を深めるよい機会となりました。(11月30日)



普段なかなか目にすることができないコンテナヤードを見学する参加者

盛岡支店

アグリ分野での連携強化
東北銀行の行内研修に参加

東北銀行がおこなう行内の農業経営アドバイザー向けの研修会にて、公庫職員が講義を実施しました。

東北銀行は重点分野の一つとして一次産業支援を掲げ、アグリ分野での地域活性化と新ビジネスモデル構築に積極的に取り組んでいます。

農林水産業の特徴を理解した経営支援ができる人材育成のために企画された本研修では、公庫職員が農業の業種別の審査の要点や、林業・水産業の基本知識を解説。民間金融機関との連携事例も紹介しました。今後の連携支援につながる研修となりました。(12月20日)



今回は25人が参加。講義後は質疑応答もあり、活発な研修となりました

広島支店

地元金融機関と共催
農業者向けSDGs勉強会

一次産業が盛んな地域を所管する広島銀行瀬戸田支店と、農業におけるSDGsをテーマにセミナーを開催。地元のかんきつ類の生産者など、総勢20人が参加しました。

講師として、安芸高田市で大規模稲作経営をおこなう株式会社ハラダファーム本多代表の本多正樹氏が登壇し、水田から発生するメタン排出削減効果のある水稲の中干し期間延長によるカーボクレジットの方法を紹介。また中国四国農政局広島県拠点主任農政推進官の宇山典子氏が、温室効果ガス削減の「見える化」について話しました。(1月17日)



「カーボクレジットの話が身近に感じられた」などの感想も

鹿児島支店

食と農を結ぶ交流フォーラムで
物流問題の解決策を紹介

「物流課題の解決」と「若い力の農業経営」をテーマに、鹿児島県農業法人協会と12回目となるフォーラムを共催。総勢159人が参加しました。基調講演では、農産物の保管運送・加工販売の一貫物流をおこなう株式会社福岡ソノリク鹿児島支社長の妹尾洋介氏が登壇。「物流の2024年問題」の解決策やグループの取り組みを紹介。

事例発表では、株式会社山英野菜(南九州市/野菜)取締役営業部長の山口新太郎氏が、仕入販売事業の立ち上げ経緯や経営目標について、若い農業者の視点から話しました。(2月19日)



「物流の2024年問題」のポイントを丁寧に説明する妹尾氏。地元紙も取材に訪れました

松江支店

資源管理から地域経済を考える
水産関係者向け講演会

一般社団法人境港水産振興協会、境港商工会議所水産業部会他と水産講演会を共催。57人が参加しました。34回目となる今回は、ジャーナリストの金子弘道氏が「資源管理と水産業の未来」をテーマに講演しました。

金子氏は、資源管理は地域維持のためにも必要と力説。持続可能な漁業基準の国際的な証明となるMSC認証の取得例や、サプライチェーンの再構築による水産物の付加価値向上の重要性を話しました。参加者からは「持続可能な水産業を考えるうえで参考になった」との声がありました。(2月29日)



国内外の実例を紹介しながら、水産物の付加価値向上の重要性を語る金子氏

近畿地区
総括

「公庫林業友の会」がセミナーを開催
業界に新しい風を吹き込む事業者が集結

木材価格の長期低迷など、厳しい事業環境の話題が多い林業界にあって、近年は脱炭素社会の実現に向けた「森林を温暖化ガスの吸収源としたJークレジット」「木材を余すことなく活用できる木質バイオマス発電」、また「国産材利用拡大の動き」など、明るい話題を聞くことが増えてきています。

この機会をとらえ、森林・林業への関心をさらに高めるとともに、林業経営改善に向けた今後の取り組みの仲間を増やすため、公庫と近畿地域の林業従事者を中心に組織する「公庫林業友の会」は、「森めぐみ」地球環境時代の新しい林



130人が参加した熱気あふれる講演会場

業」と題して林業セミナーを開催。林業関係者の他、環境に関心のある事業者ら130人が参加しました(共催：京都府立大学生命環境学部森林科学科、近畿中国森林管理局、後援：19機関)。

セミナーには、林業サプライチェーンの川上から川下に至る各分野から6人が講師として登壇し、以下のとおり講演をしました。①株式会社志賀郷杜栄(京都府綾部市)「森林整備・製材販売」「所有者にメリットのある森づくり」②岩井吉彌氏(元京都大学林学科教授)「日本林業浮上のための秘策」③京北プレカット株式会社(京都市)「プレカット加工」「国産材を無駄なく活用し日本の豊かな環境を支えていく」④林ベニヤ産業株式会社(大阪市)「合板製造」「針葉樹合板を核とした緑の循環」⑤ブノワ・ジャケ氏(フランス人建築家)「北山杉と現代建築」フランス人の眼で見た日本における木造建築の持続可能性」⑥株式会社竹中工務店(大阪市)「総合建築」「カーボンニュートラル社会に向けた木材利用の取組みとJAS材への期待」



林業従事者、製材事業者、建築関係者など多様な講師が集まりました

また、京都府立大学大学院教授の宮藤久士氏が全体講評として「本日の参加者が、持続可能性、SDGsなどのキーワードでつながりを持ち、共に行動することで、林業の未来が明るくなることを期待しています」とまとめました。

セミナー後の交流会では、意見交換が活発におこなわれ、京都府立大学森林ボランティアサークル「森なかま」が演習林での山林作業などの活動を報告しました。

参加者からは「Jークレジットを組み込んだ森林施業を構築したい」「端材利用など新しい木材の利用方法について再考したい」「異業種からの林業参入に関し貴重なアドバイスがもたらえた」などの声が寄せられました。(3月8日)

◆冬2号の「新・林業人」に広島県廿日市市吉和地区の有限会社安田林業の安田翔太さんが紹介された。吉和地区は、廿日市市の山間部にあり。私は若いころ広島県林務部に2年在籍し、県北の公有林の分収育林事業に携わり、同僚と共に山林に分け入った経験がある。

当時はまだ林業が盛んだったが、その後は安価な南洋材におされ、しかも人口過疎化で林業従事者も激減して、山林は荒廃していると聞き心配していた。

だが最近はずいぶん、ヒノキの国産材が見直されつつある。吉和地区も人口が減少しているが、そのなかにあつて安田さんのような若い人たちが、山林を守り林業振興にしっかりとがんばっておられるのが頼もしい。その地域の山林は八郎スギで有

名だが、安田さんらの若者のおかげでしっかりと後の世代に受け継がれていくだろう。

(広島県広島市 内刈)

◆毎号、新しい視点や発見を与えてくれる『AFCフォーラム』。特に「フォーラムエッセイ」と「ぶらり食探訪」が、お気に入りです！

春1号の金田朋子さんのエッセイからは「食への感謝の気持ちをお忘れないこと」、そして「笑顔を絶やさないと」の大切さを学びました。また「ぶらり食探訪」ではワインの話題が載っていて、興味深かったです。なかでも、凍結果実でつくる「アイスワイン」はとても気になります。表紙の桜と茶畑の写真も春を感じさせてくれて、「元気が出ました」。

(岡山県岡山市 藤原智史)

次号予告 夏1号(8月発行)

「異業種の視点が農林漁業を変える(仮)」

経営環境の変化が著しい農林漁業。原料調達先や販売先の変更を余儀なくされるなか、異業種の視点から農林漁業を見つめ、課題解決につなげているケースがある。異業種連携による付加価値創造を通じた、持続可能な農林漁業経営への道筋を探る。

ご意見募集

今号はいかがでしたでしょうか。感想やご意見をお寄せください。FAX・eメールなどで受け付けています。掲載させていただいた方には薄謝を呈呈いたします。

FAX: 03-3270-2350
eメール: anjoho@jfc.go.jp

編集後記

◆食品産業の持続的発展に向けたキーワードの一つ「産地との連携強化」。取り組みの定着は一朝一夕にはいかず、生産者と製造・販売業者がお互いの状況(好不調の波)や立場を理解し、継続的・安定的な取引から信頼関係を構築してようやくたり着くのだ。モノの取引だけではなく、「人」とのつながりが大事な要素となるのだろう。

(細谷)

◆「変革は人にある」の取材後、セブニーレブンで十勝大福本舗の大福を購入してみました。あんこはしっかりと程よい甘さで、小豆の食感もあり「おいしい!」。これが駒野社長の話していた「圧倒的なおいしさ」なのだと思えました。こうして今、十勝の小豆を手軽に楽しめるのも、同社のこだわりと不断の努力のおかげなのだ感じました。

(大谷)

◆地域の農業の衰退を防ぐために設立した「地域再生の助走」の加悦ファーマーズライス。地元で取れるコマを活用して郷土料理の寿司などを製造し、今では販売店舗も増えています。菅野社長のお話から、地域の生産者として手携え、歩まれてきたのだと感じました。自慢のコメで作ったお寿司、いつかいただきたいです。

(澤田)

◆果樹園から取り寄せした果物に「なるべく農薬を使わずに育てました」とメッセージがあった。「耳よりな話」で、農薬使用を減らす最新方法とその苦労を知り、農園・研究者の方々がどれだけ労力を費やしてこの一文にたどり着いたのか思いを巡らした。感謝。前号より本誌編集に加わりました。よろしくお願ひいたします。

(水谷)

AFCフォーラム 2024.6 春2号

編集

前川 紘輝 細谷 哲郎 高雄 和彦
大谷 香織 澤田 真理 鈴木 晃子
水谷 徳子

編集協力

金子 弘道

発行

株式会社日本政策金融公庫
農林水産事業本部

〒100-0004

東京都千代田区大手町1-9-4

大手町フィナンシャルシティ ノースタワー

Tel. 03(3270)2268

Fax. 03(3270)2350

E-mail anjoho@jfc.go.jp

印刷

株式会社佐伯コミュニケーションズ

*本誌に掲載している記事、写真、図表、データなどをご利用になりたい場合は、事前に当社までご連絡ください。



農

と

食

をつなぎます

国産にこだわり



第17回 アグリフードEXPO 東京2024

国産農林水産物・食品の商談会

2024年

日時

8月21日(水)・22日(木)

10:00~17:00

10:00~16:00

主催

日本政策金融公庫

会場

東京ビッグサイト 東4ホール

公式HP

